

第 61 回日本生殖医学会学術講演会

P-199

神奈川県 2016. 11. 3-4

ART における統合医療の役割と今後

姫野隆雄、河邊麗美、浅井淑子、井上朋子、森本義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

生殖補助医療（ART）の進歩は目覚ましく、胚 卵 精子の選別法や 胚質の向上に向けた取り組みなど様々な技術革新があり、今後妊娠率の向上がますます期待される一方で、治療を受ける患者様サイドに立って考えると、技術の進歩と比べ患者様本人への対応はまだまだ遅れている。今、針灸 漢方 カウンセリング等々の補助治療を組み合わせた統合医療が、患者様の生活、治療の質を上げる方法として最近では、海外からも注目されている。当院では holistic な医療を目標に掲げて患者様の健康的な生活を維持し、より早く妊娠するためのスケジュールを個々に応じて立てている。今回、昨年 12 月に回収したアンケート調査をもとに考察したい。

【対象と方法】

2015. 12 月中に来院された患者様（初診を除く）へ 100 枚のアンケート用紙を配布し、回収できた 48 枚について考察をおこなった。

【結果】

回答された方の年齢は、40 歳以上が 63%、35～39 歳 27%で、当院受診まで他院での治療歴のある方は 87%、治療期間が 1 年未満 56%、1～2 年 13%、2 年以上 29%（内 4 年以上 15%）、当院を受診された理由については、医師のキャリアが 29.5%と 1 位であったが、統合医療が充実しているためが実に 17.6%でクリニックを選択した動機の 2 位となった。統合医療全体としての満足度も 70%強がほぼ満足～大変満足と良好な結果となった。

【考察】

統合医療への注目度は大きく評価も大変良好であった。長期間不妊治療を継続される方も少なくなく、治療中に受ける精神的肉体的負担を軽減するために統合医療が功を奏すると考えている。良い結果が得られず、治療終結された際もその後の健康維持等に役立つものと

考える。今後はアンケート調査、妊娠率、卵や精子の改善度も含め、今後も報告を継続して
いきたい。